

長野県のシダ植物雑記 (9)

大塚孝一(長野県自然保護研究所)

Koichi Otsuka : Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (9)

51 ホソバハクモウイノデ *Deparia* × *togakushiensis* Otsuka et Fujiw.

本シダはホソバシケシダ *Deparia conilii* とハクモウイノデ *D. pycnosora* var. *albosquamata* との雑種で、戸隠村戸隠森林植物園を基準標本産地として記載された(大塚・藤原 1999)。このシダの区別点はハクモウイノデに比べ、根茎が匍匐し、葉柄や中軸の毛や鱗片がやや少ないこと、ホソバシケシダに比べ葉は大きく、葉身の幅が広く、葉柄や中軸の毛や鱗片が多く、下部羽片の縮小は明らかで、根茎はより太いことである。胞子はできない。基準標本産地のほか、堀金村からも採集された。

< 3 種類の検索 >

- 1 葉柄や中軸に毛や鱗片が多く、下部羽片は中央部の羽片に比べ明らかに縮小する・・・・・・・・・・ 2
- 1 葉柄や中軸に毛や鱗片は少なく、下部羽片はやや縮小するか同長(最下部羽片は時に長い)。根茎は匍匐する・・・・・・・・・・ホソバシケシダ
- 2 根茎は直立するか、やや斜上する・・・・・・・・・・ハクモウイノデ
- 2 根茎は匍匐する・・・・・・・・・・ホソバハクモウイノデ

[採集記録] 戸隠村戸隠森林植物園 1220m (藤原陸夫 1999.9.22, 長野県自然保護研究所 NAC-holotype, 写真 27 ; 同 KANA-isotype), 堀金村上堀 580m (大塚 2000.7.16)

52 エンシュウベニシダ *Dryopteris medioxima* Koidz.

本種は葉の長さが 60-80cm ほどの常緑性、暖温帯性のシダである。サイゴクベニシダ *Dryopteris championii* とマルバベニシダ *D. fuscipes* の中間的な形態をしているが、胞子は正常である。葉柄や中軸に褐色の鱗片を密につけていてサイゴクベニシダに似るが小羽片の切れこみが深く、胞子のう群はマルバベニシダのように小羽片の中肋よりにつく。葉の表面にはやや光沢がある。

本種は関東地方以南の本州、四国、九州に分布し(中池 1992)、長野県からは知られていなかったが、飯田市、阿南町、天龍村から採集された。各々の産地でそれぞれ 2 株から 3 株程度自生していた。

[採集記録] 飯田市座光寺 500m (大塚 2000.3.25, NAC, 写真 28), 阿南町下梅田 430m (大塚・藤原陸夫・阿部裕紀子 2000.12.23), 天龍村福島 330m (藤原・阿部・大塚 2000.12.24)



写真 27.

ホソバハクモウイノデ



写真 28.

エンシュウベニシダ



写真 29.

ギフベニシダ

53 ギフベニシダ *Dryopteris kinkiensis* Koidz.

本種は葉の長さが 60-80cm ほどの常緑性、暖温帯性のシダである。サイゴクベニシダに似るが、葉身は長楕円形で細長く、葉質も薄い。また、羽片は中軸に狭い角度でつく。胞子のう群は小羽片の辺縁と中肋の中間やや中肋よりにつく。葉柄と中軸には茶褐色の鱗片が密につく。長野県からははっきりした産地は知られていなかったが、長野市から採集された。2株はえていた。秋田県以南の本州、四国、九州に分布し、山麓の林縁や人里に生育する。

〔採集記録〕長野市浅川東条 460m (大塚 2000.10.19, NAC, 写真 29)

54 オオクジャクシダ *Dryopteris dickinsii* (Fr. et Sav.) C. Chr とハコネオオクジャク *D. × hakonecola* Kurata

オオクジャクシダは単羽状複生の 100cm ほどになるシダで、20-30 対の羽片があり、下

部羽片は顕著に短くなる。葉面はやや黄緑色で、葉脈の側脈は著しくへこむ。胞子のう群は羽片の辺縁より広く散在する。葉柄基部の鱗片は褐色から赤褐色。長野県では木曽南部に割合多く自生し、下伊那でも稀に見られる。北信にも若干知られていて、白馬村、山ノ内町にはやや多く見られる。今回、戸倉町他で採集された。戸倉町からはオクマワラビ *D. uniformis* との雑種であるハコネオオクジャクも同所から1株見出された。ハコネオオクジャクはオオクジャクシダに似るが、羽片の切れこみが深く、下部羽片はそれほど縮小しない。また、羽片の数も15対前後と少ない。

〔採集記録〕オオクジャクシダ：戸倉町戸倉自在山 420m (大塚 2000.12.17)、牟礼村磐山 660m (大塚 2000.10.7)、信濃町富濃舟岳 680m (大塚 2000.10.8)、山ノ内町上林 760m (大塚 2000.7.1)、飯山市小菅神社 (大塚 2000.6.25)、白馬村佐野 750m (大塚 2000.9.29)。ハコネオオクジャク：戸倉町戸倉自在山 420m (大塚 2000.12.17)

55 イワヘゴ *Dryopteris atrata* (Wall.ex Kunze) Ching

本種は葉の長さが 60-100cm, オオクジャクシダによく似ているが, 下部の羽片はそれほど縮小せず, 葉柄基部の鱗片は披針形で黒褐色から黒色である。胞子のう群は羽片の縁を除いて全面に散在する。葉脈のへこみはオオクジャクシダほど顕著ではない。日本では関東地方南部以西の本州(山形県、新潟県に稀に産する), 四国, 九州に分布し, 長野県からは木曽郡山口村から 1 ヲ所知られている(大塚 1992)。今回, 阿南町の調査で採集された。細い道路際の沢状地で 10 数株自生していた。

[採集記録] 阿南町門原 500m (藤原・阿部・大塚 2000.12.23, NAC)

56 ツヤナシイノデモドキ *Polystichum × pseudo-ovatopaleaceum* Akasawa

本シダはツヤナシイノデ *Polystichum ovatopaleaceum* とイノデモドキ *P. tagawanum* との雑種である。1979 年高知県産の標本に基いて発表された種類であるが, サカゲイノデとイノデモドキの雑種であるナメライノデとは大変よく似ていて区別がむずかしい。ナメライノデでは葉柄下部から上の鱗片が下向きみであるが, 本雑種では上向きまたはやや大きいことや周囲の自生状況から区別される。ツヤナシイノデに比べ中軸や葉柄の鱗片は幅が狭く, 葉身の先はやや尾状になり, 葉身下部では胞子のう群が小羽片の耳にやや優先的につく傾向がある。イノデモドキに比べ中軸の鱗片は幅広く, 密生する。イワシロイノデモドキとも大変よく似ていて, 区別は微妙である。長野県からは今まで知られていなかったが, 山口村のスギ林から採集された。

[採集記録] 木曽郡山口村泰生 380m (大塚 1999.10.24, NAC)

57 イノデ *Polystichum polyblepharum* (Rome.ex Kunze) Presl

本種は常緑の暖温帯性のシダで, 葉面は深緑色で光沢があり, 葉柄や中軸に褐色から赤褐色の鱗片が密生する。鱗片の辺縁には密に歯牙がある。長野県での分布は主に木曽南部, 下伊那地方であり, 一部北信にも知られているが, 最近何ヶ所かで見ているので報告する。どの産地も 1-2 株の自生である。

[採集記録] 白馬村塩島 700m (大塚 2000.6.3), 信濃町落影 700m (大塚 2000.6.24), 同富濃舟岳 680m (大塚 2000.10.8), 牟礼村髷山 660m (大塚 2000.6.18), 豊田村米山 540m (大塚 2000.10.19), 上田市手塚 580m (大塚 2000.10.28)

58 ヤマホソバイヌワラビ *Athyrium × pseudo-spinescens* Seriz. とホソバイヌワラビ *A. iseanum* Rosenst.

ヤマホソバイヌワラビはヤマイヌワラビ *Athyrium vidalii* とホソバイヌワラビとの雑種である。ヤマイヌワラビに似るが葉の切れ込みがより深く, 小羽片中肋の刺状突起が顕著となる。長野県からは知られていなかったが, 牟礼村から採集された。

ホソバイヌワラビは葉が長さ 20-50cm, 黄緑色で切れ込みが深く, 2-3 回羽状全裂, 繊細な感じのする暖温帯性のシダである。長野県では木曽南部に多く, 下伊那地方にも希に産する。最近の調査で県の中中部や北部で何ヶ所か見ているので報告する。



写真 30.

ヤマホソバイヌワラビ



写真 31.

オオカラクサイヌワラビ



写真 32.

マツザカシダ

[採集記録]ヤマホソバイヌワラビ：牟礼村髻山 660m (大塚 2000.10.7, NAC, 写真 30)

ホソバイヌワラビ：木島平村小見 350m (大塚 2000.6.25), 長野市浅川東条 460m (大塚 2000.10.19), 牟礼村髻山 660m (大塚 2000.10.7), 山ノ内町上林 760m (大塚 2000.9.30), 三郷村北小倉 (大塚 1998.9.19), 松川村神戸原 (大塚 1999.7.11), 白馬村佐野 750m (大塚 2000.10.7)

59 ヒロハイヌワラビ *Athyrium wardii* (Hook.) Makino

本種は暖温帯性のシダで、ヤマイヌワラビに似るが、葉質はより厚く、葉身は広卵形で基部が最も広い。羽片は5~6対とやや少なく、羽軸の下面は微毛がある。胞子のう群は長形で背中合わせのものはあるが、鉤形に曲がるものはない(ヤマイヌワラビでは長形と鉤形がまざる)。長野県には木曽南部と上伊那南部以南にやや希に分布するが、最近の調査で県

の中北部で採集したので報告する。どちらの産地も2~3株の自生である。

[採集記録] 堀金村三田 630m (大塚 2000.7.16), 牟礼村髻山 660m (大塚 2000.10.7)

60 オオカラクサイヌワラビ *Athyrium × tokasikii* Kurata

本シダはカラクサイヌワラビ *A. clivicola* とヒロハイヌワラビとの雑種で、前者に比べ葉質が少し厚く、羽軸下面に細毛があることが多く、羽片の柄はやや短い。後者に比べ葉質がやや薄く、小羽片の切れ込みが深い。胞子のう群はみな長形で鉤形に曲がるものがない。長野県からは今まで知られていなかったが、木曽山口村で採集された。

[採集記録] 木曽郡山口村泰生 380m (大塚 1999.10.24, NAC, 写真 31)

61 マツザカシダ *Pteris nipponica* Shieh

本種は常緑の暖温帯性シダである。オオバノイノモトソウによく似るがやや小型で、側羽片は少なく、1対あるいは2対程度で幅が広く、やや鎌形に曲がる。羽軸に沿ってしばしば白斑が生じる。白斑が入ったものは園芸品となっている。千葉県以西の本州、四国、九州に分布し、本県からは知られていなかったが、1997年藤原陸夫により天龍村から採集された。現地では2株自生しており、本品も白斑があったとご教示いただいた。

〔採集記録〕天龍村中井侍 420m (藤原陸夫 1997.11.12, NAC, 写真 32)

62 イワガネソウ *Coniogramme japonica* (Thunb. ex Murray) Diels

イワガネソウは大きくなると葉は 100cm を越える暖温帯性のシダである (写真 33)。イワガネゼンマイ *C. intermedia* に似るが、葉は深緑色で光沢があり、質は厚い。葉脈の側脈は結合し、網目をつくる (イワガネゼンマイでは網目を作らず遊離脈)。イワガネゼンマイは県下広く分布するが、本種は主に下伊那南部と木曽南部に分布し、一部北信に知られていた。最近の調査で何ヵ所か見てるので報告したい。また、栄村北野ではイワガネソウは見られないが、神社の林床に数多くのイヌイワガネソウがあった。イヌイワガネソウはイワガネソウとイワガネゼンマイの雑種で、葉質、葉形は中間的で葉脈の側脈はそこはかとなく一部結合する。

〔採集記録〕イワガネソウ：長野市浅川東条 460m (大塚 2000.10.19), 牟礼村髻山 660m (大塚 2000.10.7), 豊田村米山 540m (大塚 2000.10.19), 更埴市八幡大雲寺 420m (大塚 2000.12.8), 戸倉町戸倉 400m (大塚 2000.12.17), 栄村青倉 360m (大塚

2000.10.21), 飯山市新屋 340m (大塚 2000.5.1)。イヌイワガネソウ：栄村北野北野神社 490m (大塚 2000.10.21)



写真 33. イワガネソウ

63 ウスバミヤマノコギリシダ *Diplazium mettenianum* (Miq.) C. Chr. var. *tenuifolium* Kurata

本シダは母種のミヤマノコギリシダ var. *mettenianum* に比べ羽片が深く切れ込み、葉質もやや薄く、夏緑性である。長野県では既知の産地は大桑村であったが、今回南木曽町から採集された。

〔採集記録〕南木曽町大妻籠 600m (大塚 1999.10.24)

※ 採集記録に載せた標本の所在については、その所在を明記してないものについても長野県自然保護研究所 NAC とした。

参考文献

大塚孝一 (1992) 長野県のシダ植物雑記 (7) .

長野県植物研究会誌 25 : 27-28.

大塚孝一・藤原陸夫 (1999) 長野県産オオシ
ケシダ属 (イワデンドコ科) の一新雑種. 植

物地理・分類研究 47 : 107-110.

中池敏之 (1992) 新日本植物誌シダ編. 至文
堂.